



# 2012年3月期(2011年度) 第2四半期決算説明会

2011年11月15日(火)  
株式会社リョーサン

証券コード:8140

**RYOSAN**

2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

第8次中期経営計画トピックス

セグメント別売上高推移

補足資料

資料取扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場(日本、アジア等)の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等

## 2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

第8次中期経営計画トピックス

セグメント別売上高推移

補足資料

# 2011年度第2四半期決算のポイント

## 増収減益ながら、進捗は順調

- ・ 震災影響があったものの、ルネサスエレクトロニクス事業の商権拡大が寄与し、売上高は1,069億円(前年同期比0.4%増)
- ・ 利益面ではルネサスエレクトロニクス事業の営業力強化により、事業コストが増加し、営業利益15億円(前年同期比55.9%減)、四半期純利益11億円(前年同期比55.4%減)の増収減益となった
- ・ 期初第2四半期業績予想に対しては、売上高+19億円(+1.9%)、営業利益+4億円(+43.1%)、四半期純利益+3億円(+41.5%)と上回る結果となった

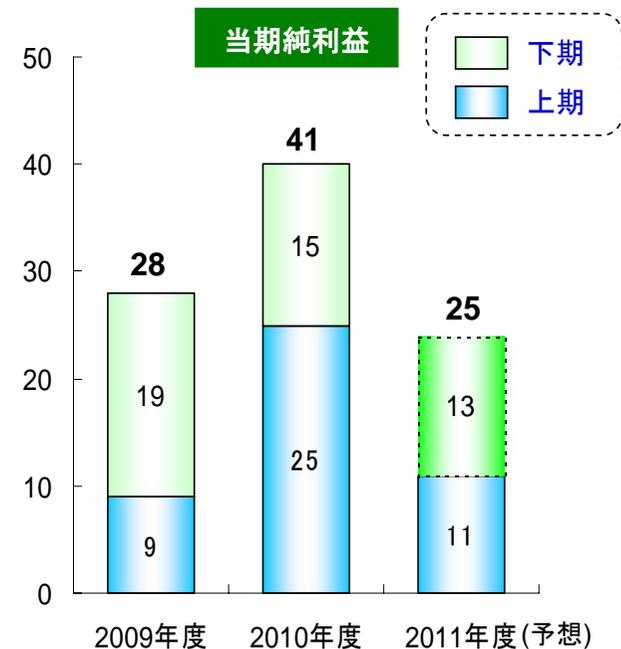
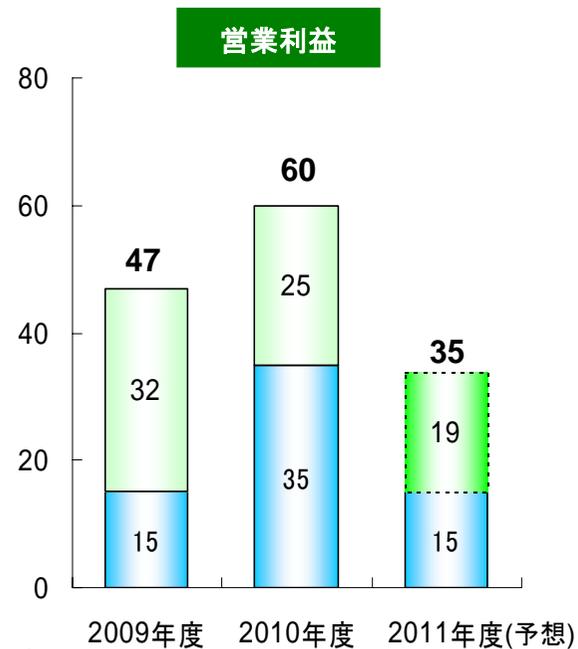
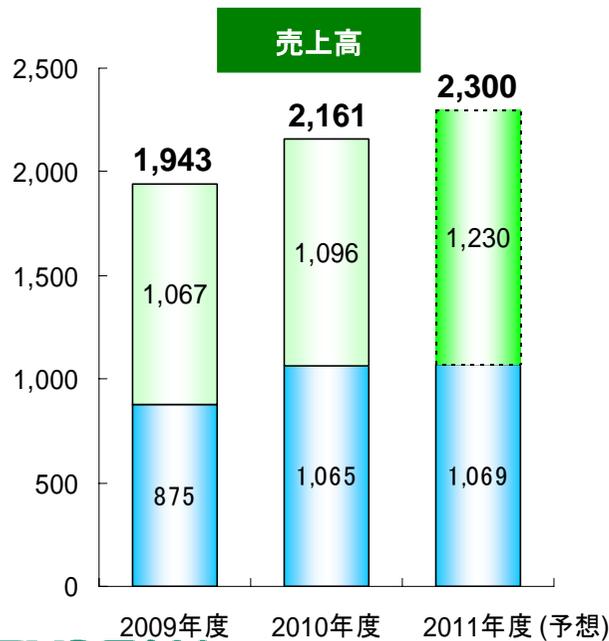
世界経済の先行き不透明感の高まりや、タイの洪水被害の影響が不透明であることから通期連結業績予想は据え置き

※今後の業績推移を検証し、適時開示

# 連結業績の概要

単位:億円

	2010年度				2011年度						
	上期	下期	売上高比	%	上期(実績)		下期(予想)		売上高比	前年比	
					前年同期比	%	前年同期比	%			
売上高	1,065	1,096	2,161	%	1,069	+0.4%	1,230	+12.2%	2,300	%	+6.4%
売上総利益	99	90	190	8.8	82	△17.3	88	△2.2	171	7.4	△10.1
販管費	64	65	129	6.0	66	+4.1	69	+6.0	136	5.9	+5.0
営業利益	35	25	60	2.8	15	△55.9	19	△23.3	35	1.5	△42.4
経常利益	39	29	68	3.2	20	△47.2	21	△27.8	42	1.8	△39.0
当期純利益	25	15	41	1.9	11	△55.4	13	△13.9	25	1.1	△39.5
1株当たり当期純利益	73円74銭	46円11銭	119円85銭		32円94銭		39円60銭		72円54銭		△39.5



# 事業別業績の概要

単位：億円

		2010年度			2011年度					
		上期	下期		上期(実績)		下期(予想)			前年比
						前年同期比		前年同期比		
半 導 体 事 業	売 上 高	617	620	1,237	649	+5.1%	770	+24.2%	1,420	+14.7%
	営 業 利 益	27	18	45	11	△58.8	16	△10.3	28	△39.0
電 子 部 品 事 業	売 上 高	301	298	600	278	△7.6	301	+0.9	580	△3.4
	営 業 利 益	12	9	22	10	△14.3	7	△27.2	18	△19.9
電 子 機 器 事 業	売 上 高	113	144	258	111	△2.1	128	△11.2	240	△7.2
	営 業 利 益	3	5	9	2	△21.5	2	△60.9	5	△44.9
生 産 事 業	売 上 高	32	32	64	30	△6.1	29	△8.6	60	△7.3
	営 業 利 益	2	1	4	1	△32.9	2	+5.7	4	△17.7
配 賦 不 能 営 業 費 用		▲10	▲10	▲21	▲11	-	▲8	-	▲20	-
連 結 計	売 上 高	1,065	1,096	2,161	1,069	+0.4%	1,230	+12.2%	2,300	+6.4%
	営 業 利 益	35	25	60	15	△55.9	19	△23.3	35	△42.4

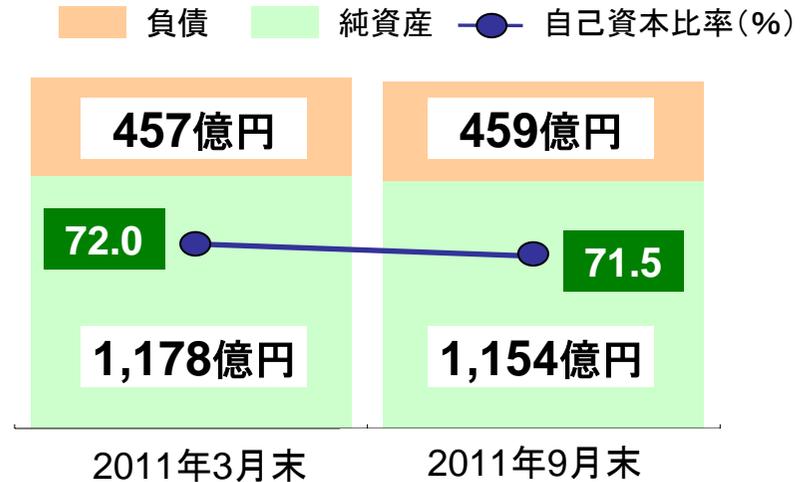
# 連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書

## 財務状況

2011年9月末

<b>資産</b>	<b>459億円</b> (うち 流動負債 433億円(94%))	<b>負債</b>
<b>1,613億円</b> (うち 流動資産 1,382億円(86%))	<b>1,154億円</b>	<b>純資産</b>

## 純資産・負債・自己資本比率



## キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2010年度 第2四半期	2011年度 第2四半期
営業CF	△4,869	△4,712
投資CF	△106	△382
財務CF	1,494	407
フリーCF	△4,975	△5,094
現金及び現金同等物残高	47,080	38,183

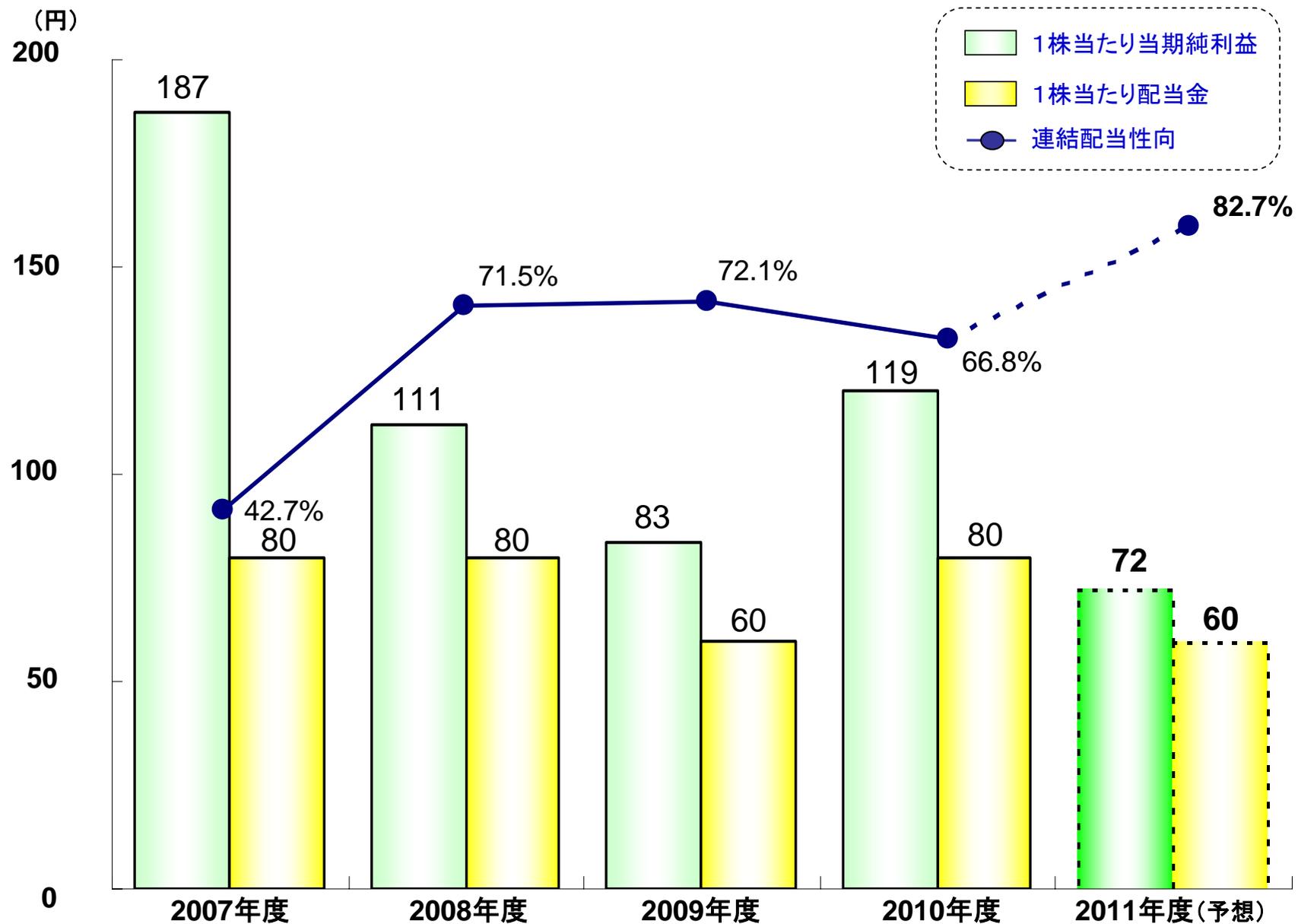
### 主な増減要因

- 税金等調整前四半期純利益 19億40百万円
- 売上債権の増加 △34億16百万円
- たな卸資産の増加 △32億36百万円

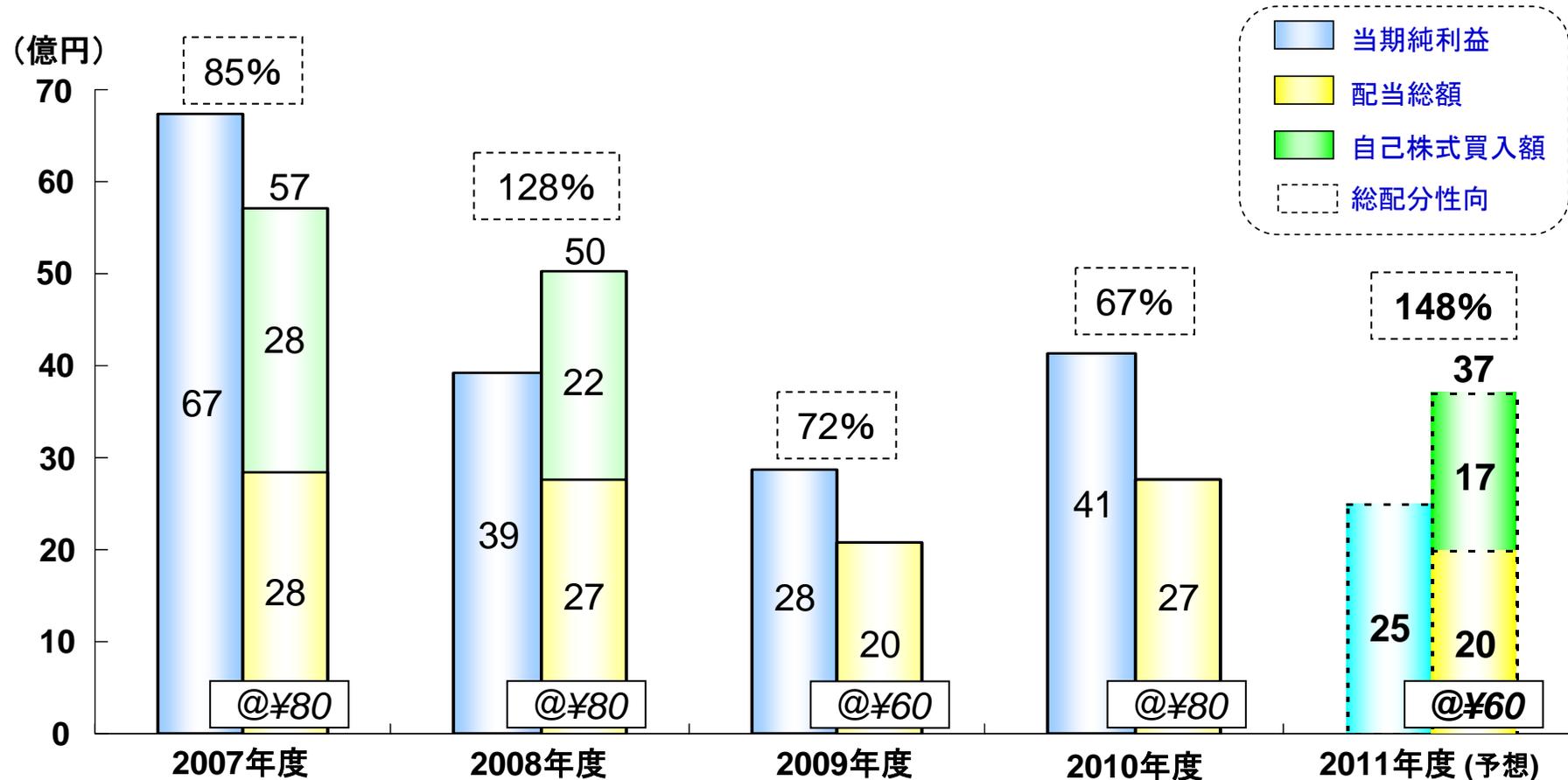
- 無形固定資産の取得 △2億19百万円

- 外貨建て短期借入金の増加 27億98百万円
- 期末配当金の支払い △13億78百万円
- 自己株式の取得による支出 △9億55百万円

# 1株当たり当期純利益と配当金推移



# 当期純利益と配当総額・自己株式買入額の推移



## 《自己株式買入状況》

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度 (予想)
金額 (億円)	28.8	22.5	-	-	17.0
株数 (万株)	100.0	100.0	-	-	100.0

2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

第8次中期経営計画トピックス

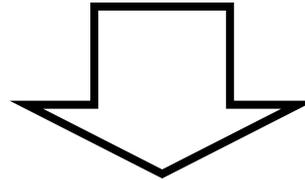
セグメント別売上高推移

補足資料

# 2011年度下期経営課題への取り組み(1)

## 1. 収益体質の改善に向けて

・ルネサスエレクトロニクス事業の商権拡大により、売上高は拡大したものの、粗利率の低下、販管費の増加により、収益が大幅に低下



- ⇒ 新たに獲得した顧客においての新規ビジネス拡大
- ⇒ 商流未決定顧客の商権確保
- ⇒ 顧客別販売体制の構築(販売、在庫、物流等)

・2013年度には、営業利益率3%を目指す

## 2011年度下期経営課題への取り組み(2)

### 2. 成長戦略テーマの実践

#### (1) 成長市場での事業拡大

- ・中国 ⇒ 現地顧客へのビジネスの拡大(M&Aの活用)
- ・インド ⇒ 現地顧客(セットトップボックス、自動車)の攻略開始

#### (2) 成長分野での事業拡大

- ・車載電装 ⇒ 日系メーカー、韓国メーカー、中国メーカーの拡販体制強化
- ・社会インフラ ⇒ 日系大手への事業拡大を模索

2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

第8次中期経営計画トピックス

セグメント別売上高推移

補足資料

# 第8次中期経営計画トピックス(1)

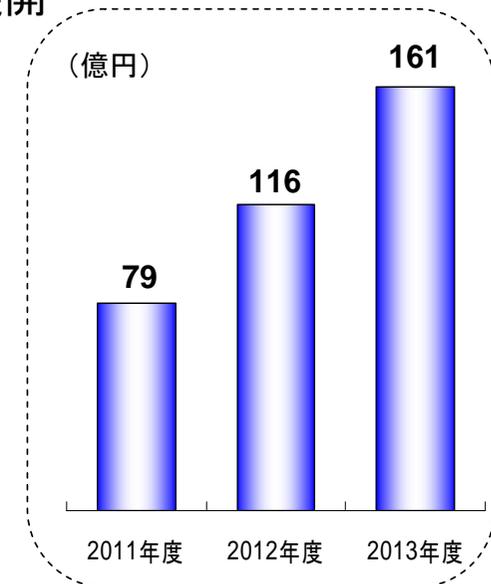
## 中国企業への半導体事業拡大策

### 1. 販売、ソリューション

- (1) 現地デザインハウス<sup>※</sup>との連携を強化
- (2) インバータ向けソリューション(マイコン他)を他アプリケーションに展開  
(エアコン ⇒ 冷蔵庫、蓄電器、カーエアコン、電気自動車)
- (3) キットビジネス(半導体+電子部品等)の積極展開

### 2. 顧客・分野

- (1) 自動車メーカー  
⇒ 先行技術を保有するデザインハウス<sup>※</sup>を活用した攻略  
電気自動車へのソリューション提案による攻略
- (2) PC・携帯電話メーカー  
⇒ スマートフォン、タブレットPC向けカメラエンジン等での攻略
- (3) 新規分野攻略(スマートグリッド、セキュリティ、LED照明、溶接機器)  
⇒ 地域別のキャラバン実施、新規デザインハウス<sup>※</sup>を発掘し、ソリューション開発や協業折衝中



※デザインハウス: 半導体等の設計を専門に行う会社



**2013年度には、160億円を目指す**

# 第8次中期経営計画トピックス(2)

## 韓国大手自動車メーカーへの集中攻略

### ■ サプライヤーを巻き込んだ顧客グループ全体のプロジェクト推進

#### 1. ボディ系

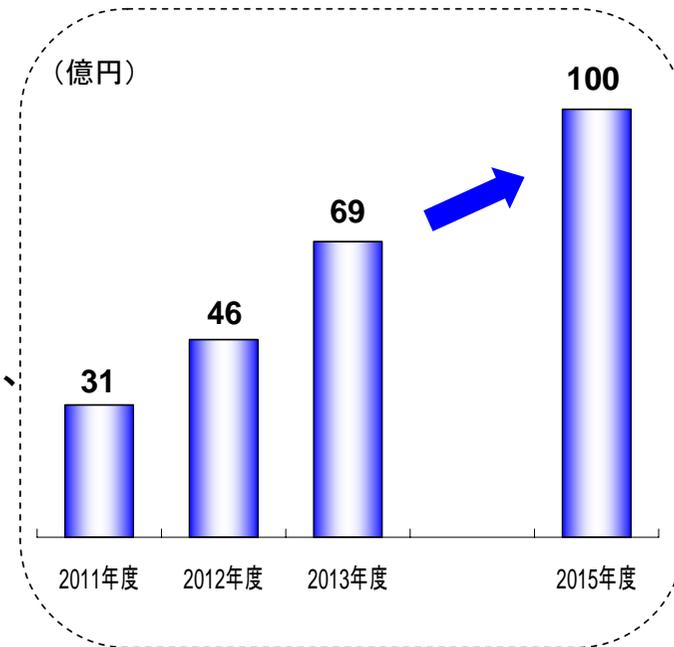
- (1) 技術要員密着による、きめ細かな技術サポートの実践
- (2) アナログ & パワー商品のキットセールス展開

#### 2. シャシ系

- ・ プロジェクト毎のグローバルな技術サポート体制の構築し、トータルソリューションを提供

#### 3. カーマルチメディア系

- ・ Android OS対応も含めたサポート体制を構築

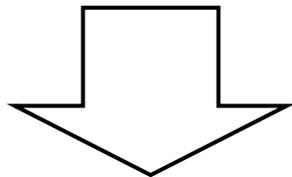


**2015年度には、100億円を目指す**

# 第8次中期経営計画トピックス(3)

## 台湾リソースの発掘

- ・顧客の低価格ニーズに対応
- ・品揃えの充実による販売機会の拡大
- ・新市場の開拓



8つの商品群を中心に  
台湾メーカーの取り扱いを開始  
各種モジュールから完成品まで、  
カスタムを含めた提供が可能



**2013年度には、40億円を目指す**

2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

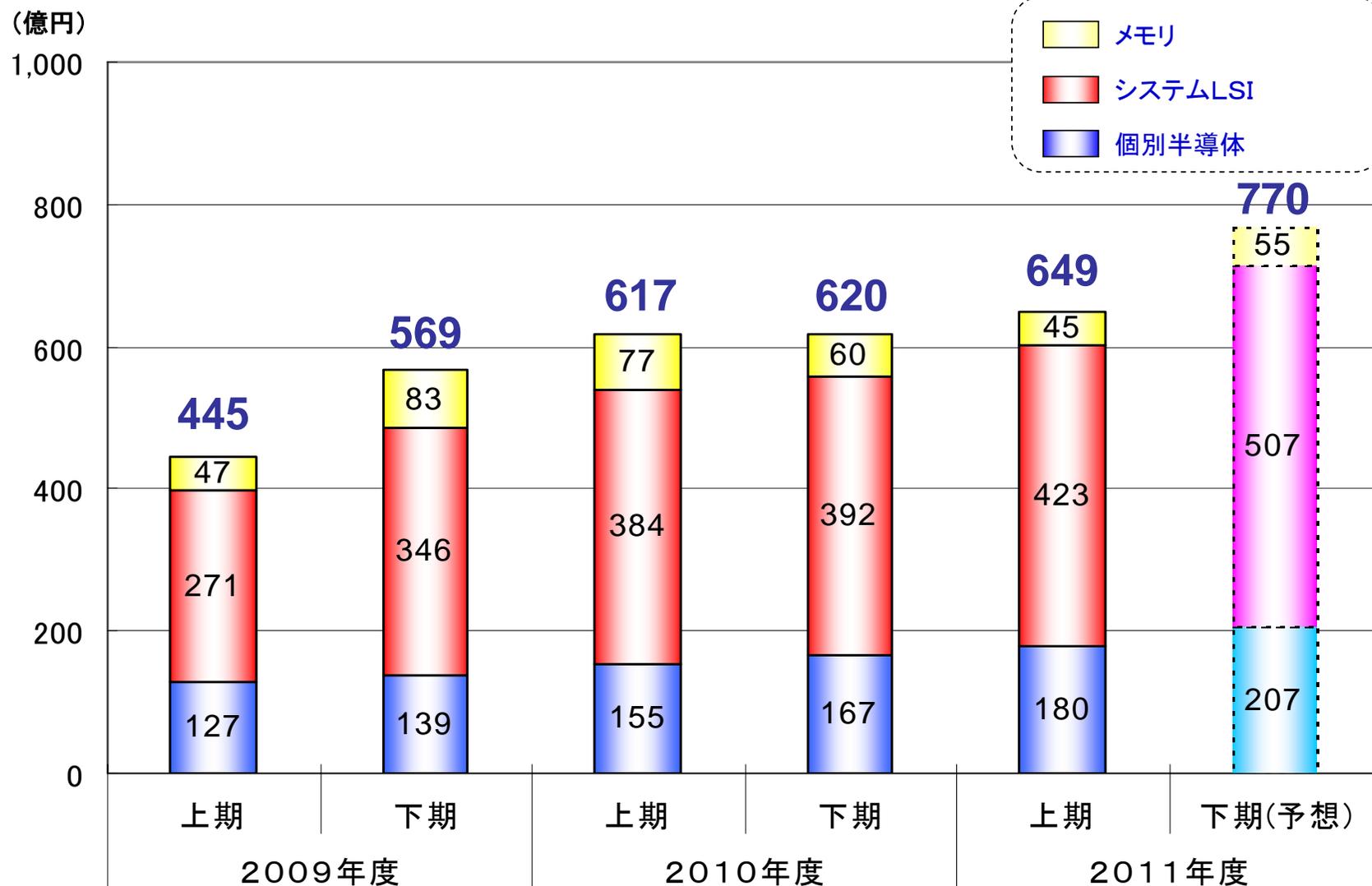
第8次中期経営計画トピックス

セグメント別売上高推移

補足資料

# 半導体事業の売上高推移(商品別)

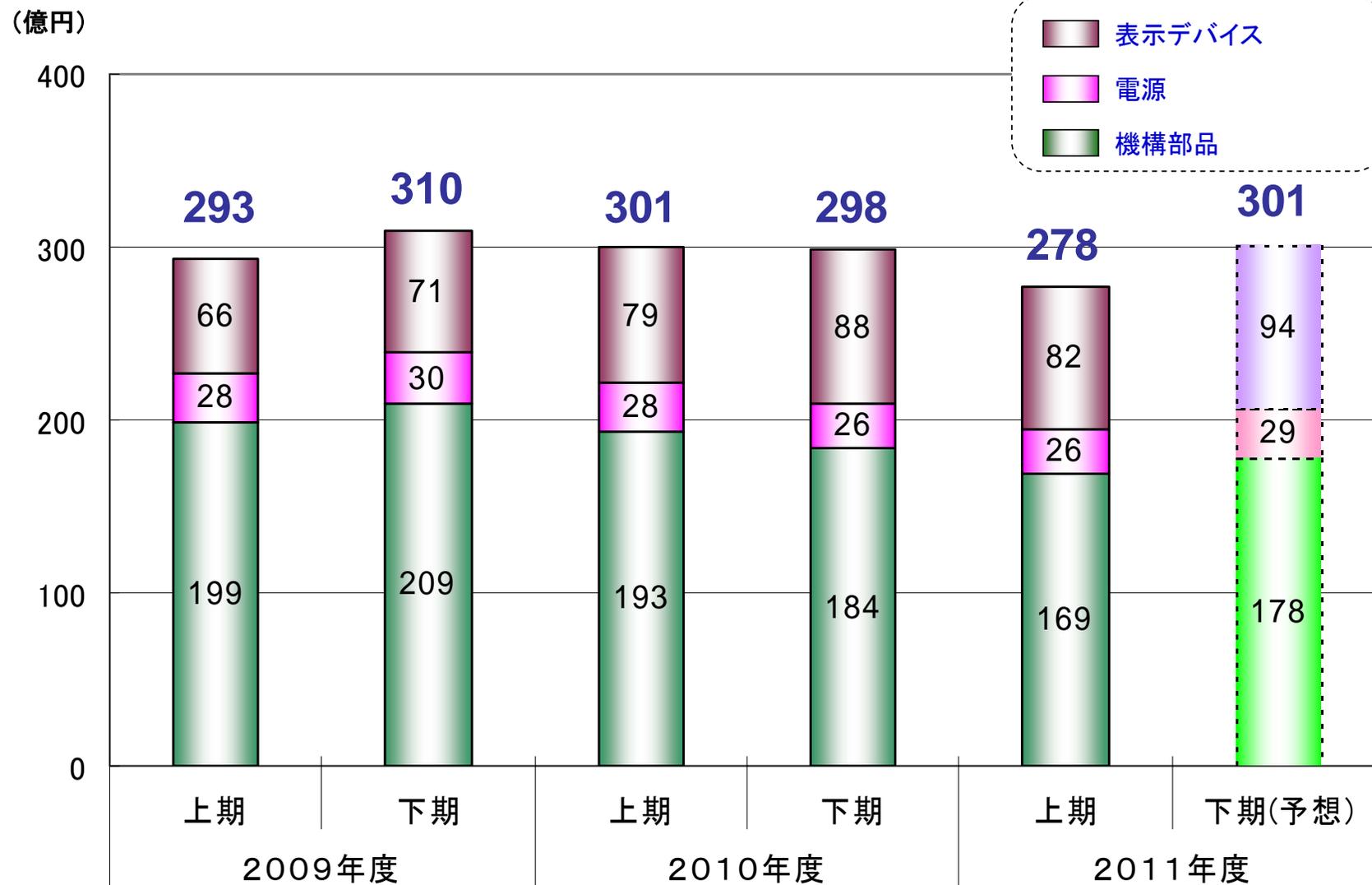
11年度上期:PC用DRAM等が減少したものの、車載電装用システムLSI等が増加  
 11年度下期:引き続き車載電装用システムLSI等が増加する見込み



# 電子部品事業の売上高推移(商品別)

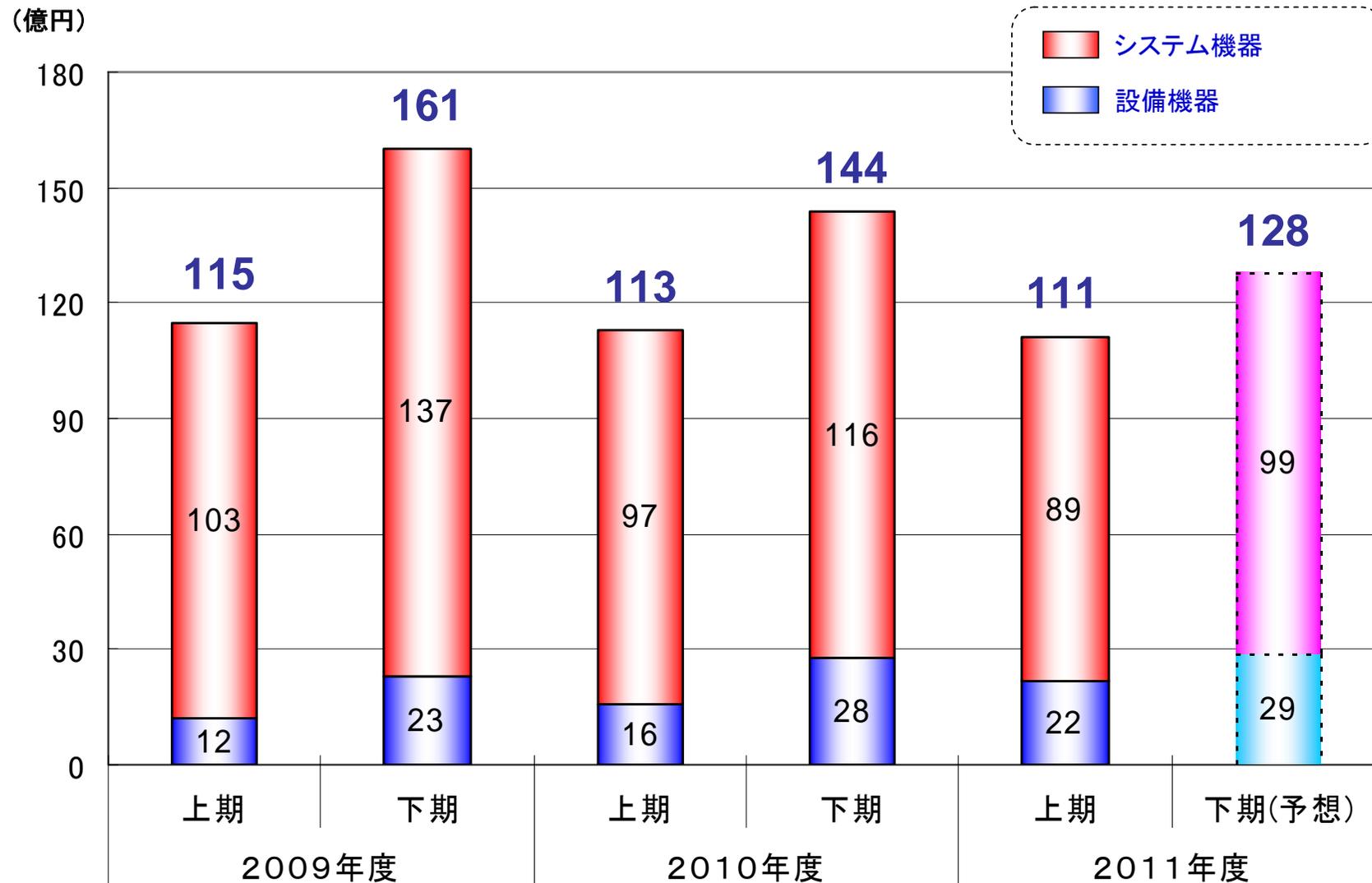
11年度上期:ゲーム機用機構部品等が減少

11年度下期:DSC用表示デバイス、携帯電話用・車載電装用機構部品等が増加する見込み



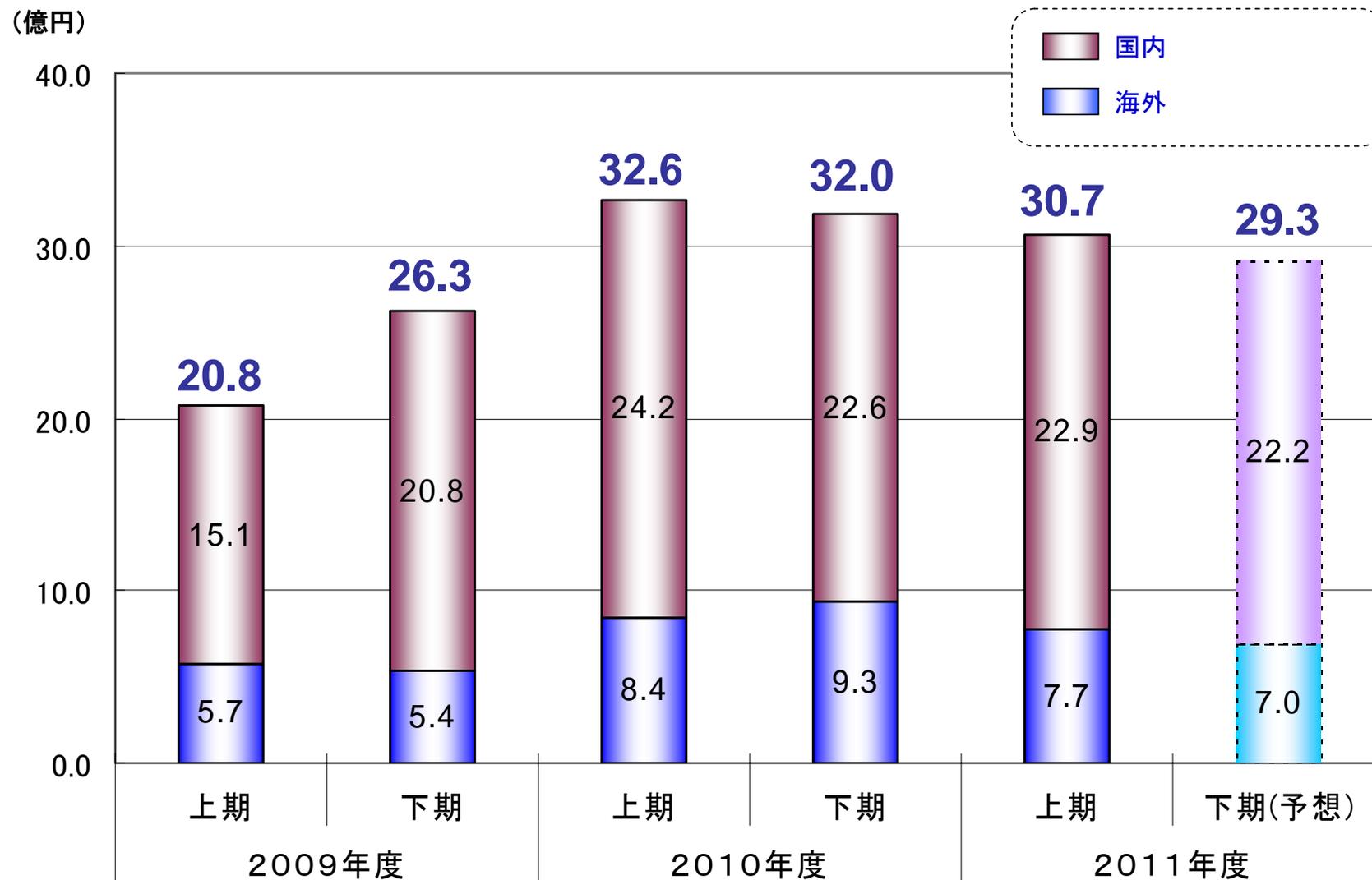
# 電子機器事業の売上高推移(商品別)

11年度上期:車載電装用システム機器等が減少  
11年度下期:複合機用システム機器等が増加する見込み



# 生産事業の売上高推移(地域別)

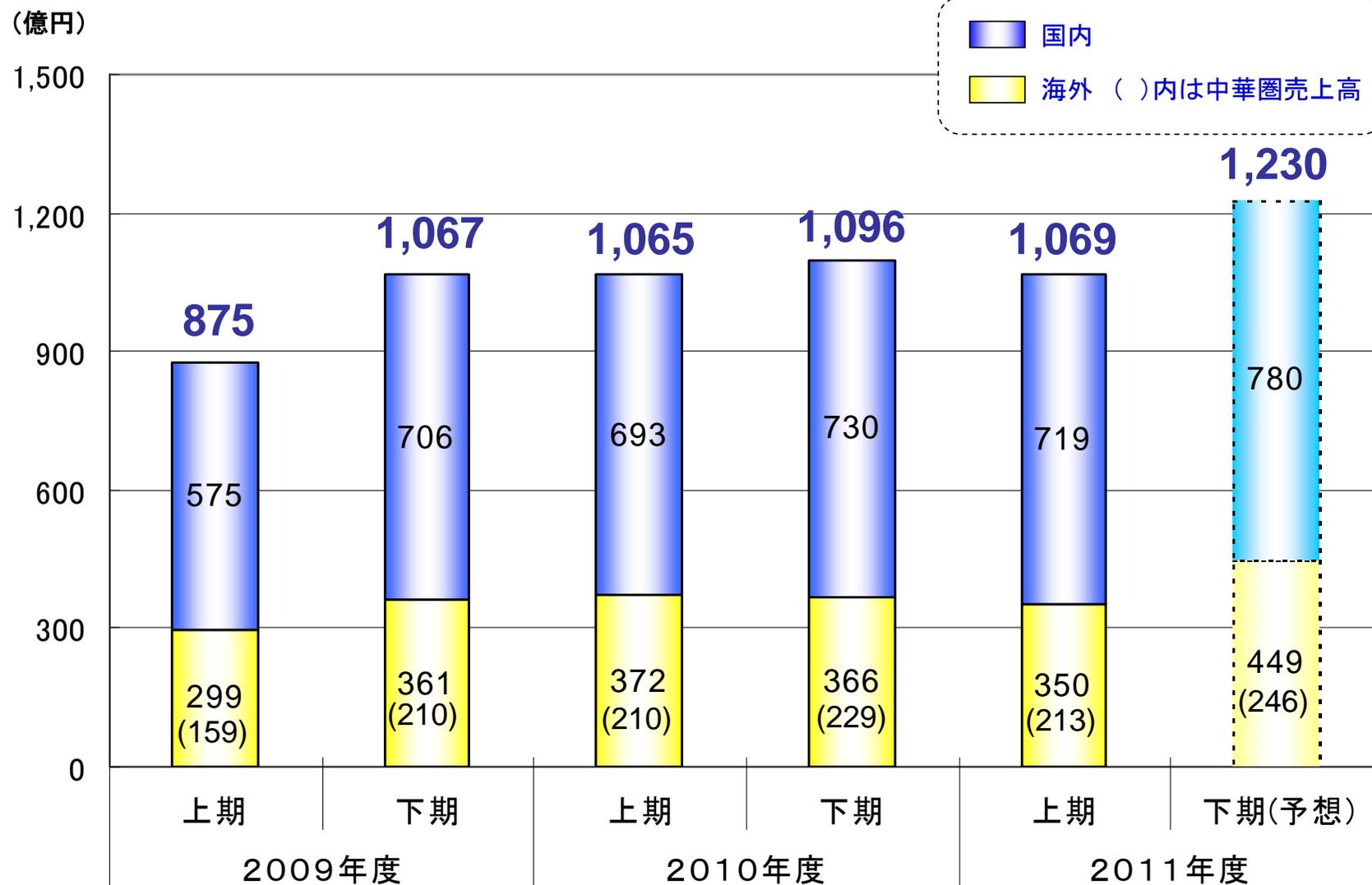
11年度上期: 薄型テレビ用ヒートシンク等が減少  
11年度下期: 引き続き薄型テレビ用ヒートシンク等が減少する見込み



# 国内・海外の売上高推移

11年度上期:PC用DRAM等が減少

11年度下期:PC用DRAM、DSC用表示デバイス等が増加する見込み



2011年度第2四半期決算及び通期見通し

2011年度下期経営課題への取り組み

第8次中期経営計画トピックス

セグメント別売上高推移

補足資料

# 主要得意先

## 《売上高上位40社》

	上位1～10社	上位11～20社	上位21～30社	上位31～40社
顧客名 (アルファベット順)	カルソニックカンセイ カシオ計算機 デンソー 日立製作所 三菱電機 日本電気 ニコン オムロン パナソニック パイオニア	アドバンテスト アルパイン アルプス電気 ブラザー工業 富士フイルム 富士ゼロックス マミヤ・オーピー 任天堂 住友電装 住友電気工業	クラリオン 富士通 古野電気 JVCケンウッド シャープ TDK 東芝 東芝テック ヤマハ 矢崎計器・部品	日本無線 コニカミノルタ ホールディングス MiTACグループ(台) パナソニック電工 SAMSUNGグループ(韓) 三洋電機 スタンレー電気 太陽誘電 タカタ 安川電機
売上高 構成比	(上位10社) 50%	(上位20社) 63%	(上位30社) 69%	(上位40社) 72%

## 《事業別 売上高上位5社》

半 導 体	電 子 機 器
日立製作所 三菱電機 日本電気 ニコン パイオニア	デンソー 富士ゼロックス 日本電気 ニコン パナソニック
(上位5社) 50%	(上位5社) 55%
電 子 部 品	生 産
カルソニックカンセイ 三菱電機 日本電気 任天堂 パナソニック	デンソー ファナック 日立製作所 三菱電機 パナソニック
(上位5社) 26%	(上位5社) 43%

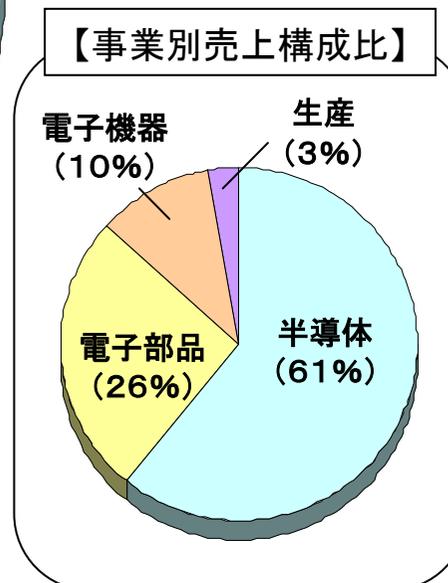
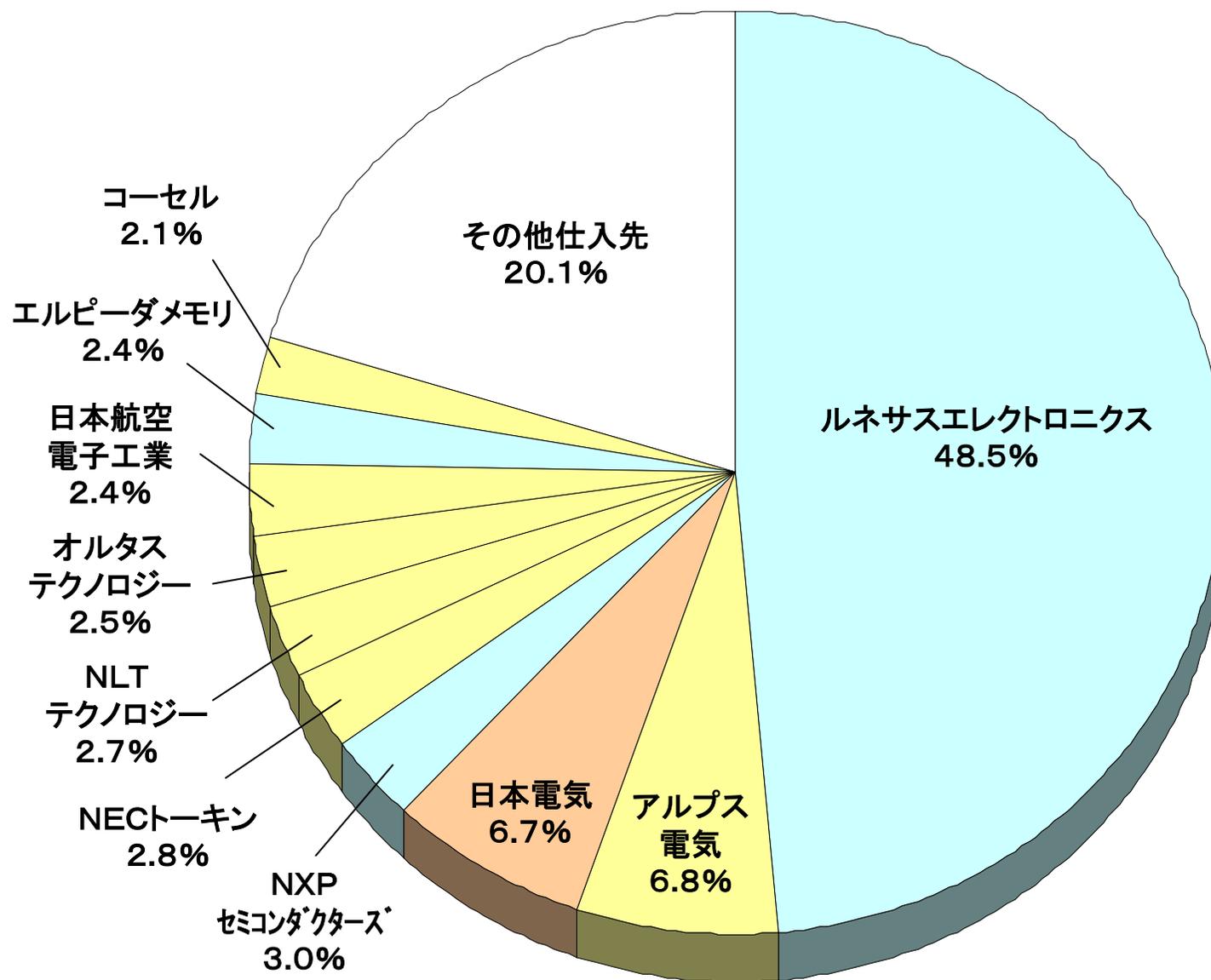
(アルファベット順)

※順位、構成比(%)は2011年度上期売上実績に基づく

※(台)は台湾、(韓)は韓国の顧客

※青字は売上高が前年同期比20%以上増加した顧客

# 主要仕入先



※構成比(%)は各仕入先商品の2011年度上期売上実績に基づく

# タイの洪水被害の現況について

---

## 1. 社内体制

- ・現地との連絡を密にし、変化に迅速に対応できるよう、本社に緊急対策本部を設置

## 2. タイの現地法人

### (1) 商事: Ryosan (Thailand) Co.,Ltd. [所在地: バンコク]

- ・11月14日現在、浸水なし
- ・オフィスは高層階にあり、今後も浸水の心配はない

### (2) 生産: Ryosan Engineering (Thailand) Co., Ltd. [所在地: チョンブリ]

- ・11月14日現在、浸水なし
- ・バンコクから東へ約60kmと離れており、今後も浸水の心配はない

## 3. 取引先

### (1) サプライヤー

- ・一部の電子部品生産工場が製造を停止し、年末以降の供給量が逼迫する見通し

### (2) 顧客

- ・カーナビ、DSC顧客での直接的な浸水に加え、各種部品の逼迫が想定され、生産への影響が懸念される

## 4. 今後の見通し

- ・年内に水が引いても、生産再開は早くて2012年2月以降という見方が大勢を占める
- ・洪水の拡大、疫病の発生等のリスクがあり、一部では他国を含めた工場の立地を再検討する動きがある